

地域の絆を固く結びます！

「ひなまつり」に「ひもまつり」

昨日3月2日、阿佐谷北1丁目の杉並区立杉並第一小学校では、ひなまつりにちなんで平成16年から始められ、今回で11回目となる「ひもまつり」が開催され、地域の住民など150名あまりが参加しました。ひもまつりは、その名のとおり、ひも（ロープ）をうまく活用して、災害時に命を守ろうとするもので、毎年3月3日の前後で開催されてきました。

ひなまつりは、桃の節句に女の子の成長を願う年中行事として広く定着しています。ひもまつりは、このひなまつりの時期が、ちょうど春の全国火災予防運動の時期に重なるため、火災予防訓練の一環として平成16年から始まり、今年で11回目となります。

ひもまつりを主催するのは、杉並防火防災協会阿佐谷地区連合支部や地域の町会などです。災害時には、ロープ1本で多くの命を守ることができるため、ひもの活用方法を紹介し、それを習得する場となっています。ひもの習熟度には、地元の阿佐谷地区の消防署が考案した「結索道場段位」が設けられています。

この日は、あいにくの雨となりましたが、地域の住民など150人あまりが参加。参加者は、災害時に避難するためのロープワークとして、11ミリの太さのナイロンロープを使って、節結びを学びました。消防署がナイロンロープを練習用に4mほどの長さに切り分けたもので、節結びでおだんごを作って滑らないようにした避難梯子を作りました。参加者は、みな真剣な表情で取り組み、その習熟度により地元消防署から、初段の認定書を受け取りました。



ひもまつりの主催者の一人である阿佐谷北五丁目町会の近藤利男会長（79歳）は、「ひもまつりを通じて、ひもの活用方法を覚えてもらうのと同時に地域の皆さんの顔を覚えてもらい、万が一の時に皆が協力していける地域の関係が出来上がらばうれしい」と話していました。

【報道機関 問い合わせ先】

総務部広報課 電話 3312-2111